



栄養判定に用いる血液検査について

血液検査項目の追加

2016年1月より、NST 介入患者において、より効果的な栄養評価を実践するため、血液検査項目を追加でオーダーさせていただきます。オーダー入力につきましては NST 担当医師よりさせていただきますので、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。そこで今号では、追加される血液検査項目とその意義をご紹介しますと思います。

アルブミン・レチノール結合タンパク・トランスサイレチン・トランスフェリン・CRP

タンパク栄養障害の状態を反映する血清タンパクには、アルブミン、レチノール結合タンパク、トランスサイレチン、トランスフェリンがあります。半減期は、アルブミン 21 日、レチノール結合

タンパク 0.5 日、トランスサイレチン 2 日、トランスフェリン 7 日と異なっており、アルブミンは長期に及ぶ栄養状態、レチノール結合タンパク、トランスサイレチン、トランスフェリンは急性期のタンパク合成能を反映すると言われていています。レチノール結合タンパク、トランスサイレチン、トランスフェリンは栄養状況以外に感染や炎症でも変動することから、それと区別するため、感染・炎症マーカーである CRP を同時に測定します。

ビタミン B₁

ビタミンは微量で体の機能を調整する働きをしますが体内ではつくれず、必ず食事などで体の外からとらなければなりません。ビタミン B₁ が不足すると疲労や脚

気のほか、うつ状態に陥りやすく、感染症やアレルギー疾患にもかかりやすくなります。ビタミン B₁ が欠乏すると代謝経路が止まり、乳酸アシドーシスになります。中心静脈栄養、末梢静脈栄養の際にもビタミン B₁ は欠乏しやすいです。

鉄・フェリチン・TIBC・ビタミン B₁₂・葉酸

栄養素の欠乏による貧血には、鉄欠乏性貧血、ビタミン B₁₂ 欠乏性貧血、葉酸欠乏性貧血があります。鉄欠乏性貧血として鉄、フェリチンを測定します。ビタミン B₁₂ 欠乏性貧血と鉄欠乏性貧血との鑑別に TIBC を測定します。葉酸かビタミン B₁₂ のどちらか一方でも不足すると巨赤芽球性貧血の発症の原因となります。

—院内勉強会のお知らせ—

健康長寿と栄養の研修会

演名：「食を支える京の多職種、異業種連携」

愛生会山科病院 荒金英樹先生

日時：2016年2月22日(月) 17:40—

場所：当センター 研修センター 大研修室

—学術集会のお知らせ—

第 19 回日本病態栄養学会年次学術集会

日時：2016年1月9日(土)・10日(日)

場所：パシフィコ横浜

第 31 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

日時：2016年2月25日(木)・26日(金)

場所：福岡国際会議場